

# DAY OF HOPE BANQUET

1974.5.7

## 「希望の日」晩餐会



# **Day of Hope Banquet in Tokyo, Japan**

# The Way of the World

May/June 1974

## asia

### JAPANESE DAY OF HOPE BANQUET LARGEST IN HISTORY

by MIEKO KOBAYASHI

On Tuesday, May 7, 1974, the Day of Hope Banquet, the largest banquet in Japan's history, was held at Tokyo's Imperial Hotel to welcome Reverend Sun Myung Moon, founder of the Holy Spirit Association for the Unification of World Christianity.

Some 1,700 prominent guests from all fields, including forty parliamentarians, were invited. Guests from overseas included ten parliamentarians from the Republic of China and the Republic of Korea and Dr. Joseph Kennedy and Miss Trish Marks from the United States. Mr. Kogoro Uemura, chairman of the Federation of Economic Organizations; Mr. Katsumi Ohno, president of the Imperial Hotel; Abbot Yozo Nihei of St. John's Monastery; and H.E.

Kim Young Sun, Korean Ambassador to Japan, were also among the guests.

The banquet was highlighted when Mr. Takeo Fukuda, Japanese Finance Minister, arrived from his previous engagement. All the guests stood up and gave him an ovation. Reverend Moon himself received him at the edge of the head table and led him to his place. One of the most impressive scenes of that night was the very warm embrace given him by Reverend Moon.

Reverend Moon was supposed to speak for thirty minutes. But actually he spoke more than an hour. It was a surprise that at such a big banquet all the people were quiet and concentrated on the speech and hardly anyone left early. The banquet was truly blessed by God. Reverend Moon's speech was in flawless Japanese, as Reverend Moon had studied in Japan.

In his talk, he emphasized

that God loved Japan and that the prosperity of Japan after the war was the proof of God's love for her. The people of the three nations of Free China, Korea and Japan are brothers, he added. If they become one and go together hand in hand, there is no fear in the world. After Reverend Moon's speech, Mr. Fukuda gave a congratulatory speech. He summarized what Reverend Moon had spoken. It was very effective in helping the audience understand Reverend Moon's speech.

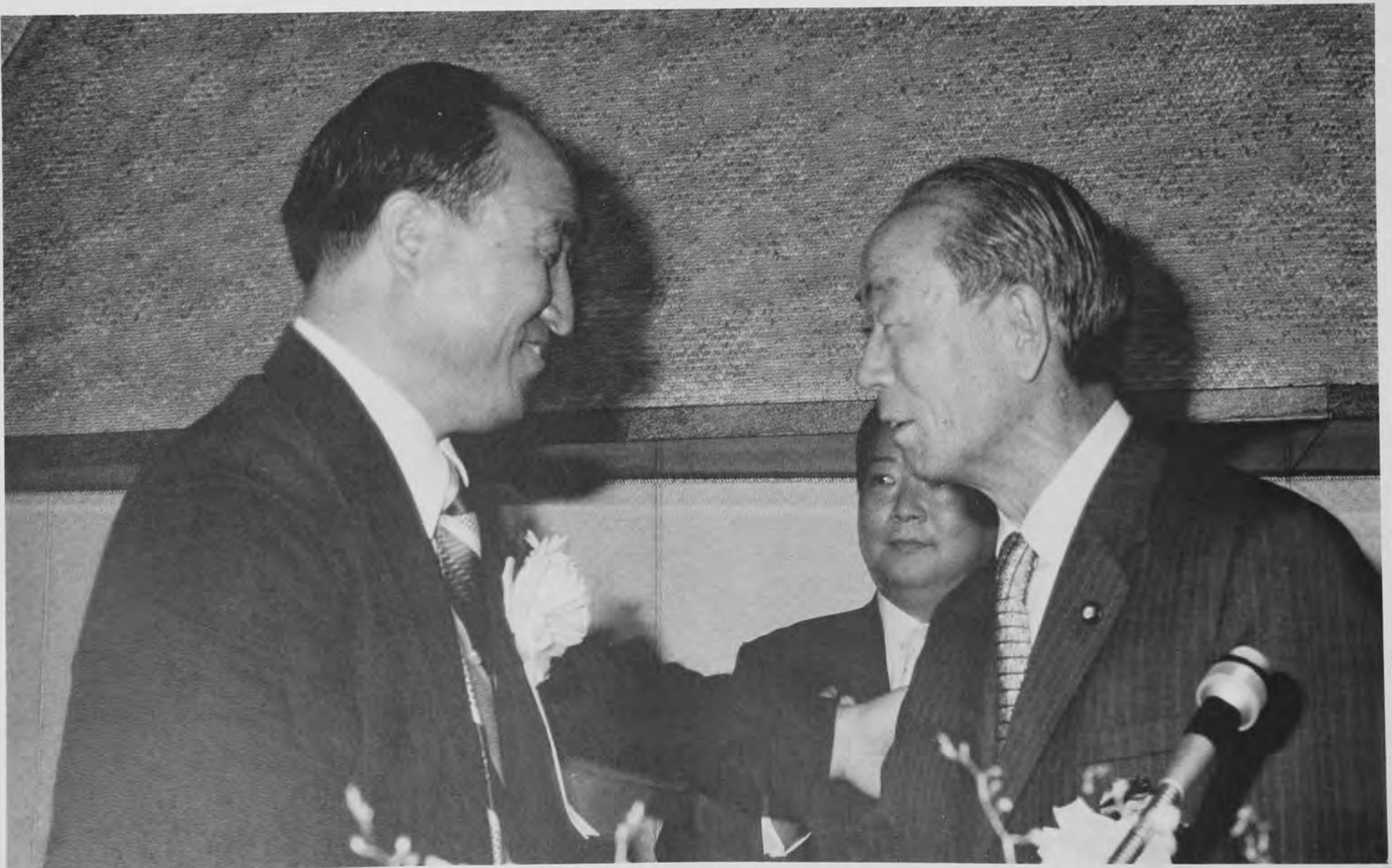
A movie about Reverend Moon's work in America was shown at the end of the program. This movie proved what Reverend Moon spoke is really being carried out. The four-hour banquet finished on schedule at 10:00 p.m. All guests left with a great satisfaction. We have no doubt that the future of Japan is a bright one now.

Col. Bo Hi Pak, who accompanied Reverend Moon to Japan, reported that the banquet was a

"dazzling success." The 250 waitresses, waiters, and maitre d's were very precisely trained by Col. Pak for very efficient and impressive service. The hotel hired help especially for the banquet and trained them for a week.

This was the first time Reverend Moon spoke publicly in Japan. His speech was interrupted a dozen times with applause, led by Minister Fukuda, who was seated beside the podium.

Col. Pak reported the gist of Minister Fukuda's speech: "We have heard about Reverend Moon, but this is the first time I have heard him speak. We must come forward and help this movement, simply because Japan needs it most. Since the war, Japan has been too materialistic. People have worked hard since the war, but now they feel disillusioned. What we need is God and a dedication to humanity. This man has the message." □





- 1 Our Master greets Japanese Finance Minister Takeo Fukuda, who later referred to Our Master as "the greatest religious leader" and "the pride of Japan," explaining that he represents not only Korea, but all of the Asian peoples.
- 2 Specially trained waiter serves Our Master and Mother at the head table.
- 3 Rev. Paul Shin Nakamura opens the banquet with a prayer.

3





DAY OF HOPE DINNER

希望の日晩餐会次第

M E N U	開 場	P. M 6:00
Saumon Fumé aux Câpres スモークサーモン ケッパー添	来 賓 入 場	
Consommé Printanier コンソメスープ	晚 餐	
Filet de Boeuf Bordelaise ロースト ファレビーフ ボルドー風	挨 拶	久 保 木 修 己
Légumes 温野菜	記 念 講 演	文 鮮 明 師
Salade de Saison 季節のサラダ	来 賓 挨 拶	
Glace Napolitaine ナポリタン アイスクリーム	ア メ リ カ 講 演 旅 行 報 告	朴 普 熙
Café コーヒー	映 画	「希望の日」の活動記録

文鮮明師の横顔

統一原理概要

統一原理は文鮮明師が16才の時天啓を受けて以来20年間言語に絶する苦難と斗って遂に聖書の真理とキリスト教の背後に流れる宇宙創造の神の根本原則を解明したものである。

人類は原初のアダム、イヴ以来墮落して罪人の状態にあり、これを清算しない限り、個人の悩みや国家社会の諸問題の解決はあり得ないとする。そのため宇宙の根源たる神の存在を知って、信じ、その法則性を理解し実践することによって個人と世界の問題

を解決して地上に理想的な地上天国が実現できる具体的方法を示している。

内容は大きく三つの部分にわかれ最初の創造原理では神の存在証明と宇宙の根本的諸法則を見事に解明している。

次の墮落論では自然に矛盾はないのに人間だけがどうしてあらゆる苦悩を背負い罪を犯すのかその原因と理由を明らかにしている。最後の復帰原理ではそのような人間にも救いの道があり、個人や家庭の悩みから国家や世界の問題解決をして地上天国を実現する原則と諸法則を明示している。

希望の日実行委員会

昭和四十九年四月十七日

殿

「希望の日」実行委員会  
名誉委員長 岸 信 介  
実行委員長 久保木 修己

敬 具

御招待

謹啓 陽春の候益々御清祥の段大慶に存じます

さて、今日の苦悩するアメリカの各地で「希望の日」講演を行って、ニクソン大統領始め全国民に多大な感動を呼び起した文鮮明先生を日本に御招待して左記により「希望の日」晩餐会を開催したいと思ひます。

日本とアジアの将来を考察する上で極めて有意義な機会と考えますので御多忙の折誠に恐縮に存じます。是れとも御出席下さいますようお願い申し上げます。

記

一、日 時 昭和四十九年五月七日(火曜日) 午後六時～八時

二、会 場 帝国ホテル 二階 孔雀の間

三、次 第 晩 餐

記念講演 文 鮮 明 先生

映 画 「希望の日」の活動記録

後援団体

- 世界基督教統一神霊協会
- 国際勝共連合
- 国際文化財団

本報長崎版より「希望の日」を掲載いたします。敬請御注意。



# 希望の日講演会

## 日・台・韓は兄弟関係

### 文鮮明氏迎え千七百人

七日(火)、帝国ホテルで「希望の日」講演会が行なわれた。世界基督教統一神霊協会の文鮮明氏を迎えて、千七百人の聴き込みで講演された。大韓民国および中華民国から国会議員、日本からは福田大蔵大臣らが出席しての組織動員力は、同会名誉実行委員長岸信介氏のロビーイストとしての面目躍如たる所。内外の記者も多数招かれて、その見事なまでの演出に驚きと感嘆の声を発していた。アメリカで「ニクソンを許せ」と訴えて歩き、インビテーションを許されることになれば韓国のドン・キホーテと驚きされかねないキャンペーンを行なった理由の多くは文氏の講演内容にみとれる。達者な日本語に感心させられたが、内外の記者を驚かしたのはいさつに立った福田蔵相の理解力と頭の回転の早さ、そしてユーモアだった。

国際的信義を重んじる人は利益がなくとも、中華民国から中国へ乗り変わることでいい。帝国ホテルはじまって以来の聴き込みの行なわれた九日、国会では一部議員欠席のまま、日中航空協定が「満場一致」で通過した。「希望の到来」は日本が国際信義を失なつた裏返しでもある。

### 人のために生きる愛

#### 日本は世界を指導できる

米國でもニューヨーク・タイム 大きく取り上げ、日本のマスコミズ紙やワシントン・ポスト紙までも「一番せんじを書いた文鮮明氏の

日本における「希望の日」講演内容は大むね以下の通り。

「神は日本列島を誰よりも愛してきた。戦後から今まで最も恵まれた国は日本である。国民の努力の反面、神の愛と祝福がある。日本を愛する神はその中心である首都東京を愛し、今夕お集りのみなさんを愛する。中華民国、大韓民国の諸先生をして日本の諸先生から歓迎を受け無量の栄光を授ける。日本、中華民国をして大韓民国は兄弟である。兄弟が一つになつて、日本が愛された以上にアジアに、さらに世界に共に手をつなごう。進む機会が今晩であるなら、これ以上の喜びはない。

人類の歴史において人々は永遠不変であり、真なる愛と平和と理想を求めてきた。人間を創えて絶対なる神がいるなら、真の愛、幸福をなされる愛の王、中心者である。神によって始めて、人間のぶつかった限界を打開する以外にない。愛、幸福、平和、理想はすべて絶対関係にあり、神がなすなら、この世界に絶対的立場にある



【「希望の日」講演会を控らす文鮮明氏】

くと、お集まりの先生方一つ質問があります。

相対者として自分の愛を渡した時、自分より愛したものが、劣ったものといわれれば、答えては愛したものでしょう。それが主体の願いであり、自分より愛したものに、地球上に住む人々になつてほしいという神の願ひがある。

一方、人類は悲惨な火中にある。神を中心として主体ばかりに尽すというなら、全が自分を中心として住まよということになつたら大変なことになる。そこには友好はない。相対者のために全能なる神は理想、愛、平和、幸福の奉仕をするのであり、ために生きる。大いなる存在だ。自分を中心にして主観的に見る人はいかに生まれてきたか、を問うは女によって存在してきたのである。

り、女が生まれてきたのは、男を中心として生まれてきたのである。ために生きる。夫婦こそ理想的であり、真の平和の基盤がある。まことの親は自分自体のためでなく、その子供のために生き、命を捧げる。また、子供が親のために生きるなら、それがまことの親行である。

愛國者として乃木大将をあげる事ができるのは、ために「生

きたからであり、人類の歴史の中でまこと人類のために生きたのはイエス・キリストである。善に對してはもちろん、悪に對しても、ために、生き死んでいった聖人中の聖人である。各人が他人のために生きる國は地上の天国だ。

宗教は奉仕性と犠牲性の上に成り立つ。その本心は善である。恩返しをする時、恩の五〇%をポケットに入れる人がいるかと問われれば、誰もそうでないと答える。受けた以上に返し、またそれ以上に返したという人がいれば、永遠性があられる。愛がある。人のために返せば返ってくる。

世界統一という大きな言葉に不信に思う人がいるかもしれない。一つの宗教が人々に尽そうとする以上、戻すなら、一つになれる。他の宗教より戻そうとするなら、他の宗教も一つにできる。それが統一の原理である。

個人主義は滅びる。アメリカなくして日本が世界を守ることほどできない。超民族的に愛くしい日本が、希望のある日本がアジアのみならず世界の日本の日本となるなら、ましがいなく世界を指導するであらう。」

### 物資文明に埋れた日本人の心取り戻そう

#### 福田蔵相あいさつ

これに対し福田蔵相があいさつした。

「私は三十八歳です。ただし明治三十八歳です。(笑い)社

戦後三十年よく平和が続いたものだと思えます。そして第三次が起きそうに感じない。物質文明の偉大なる発展の中にいるわけだが、それが悪かったとは思わない。しかし、その中で大事なものが忘れられているのを感じます。われわれは絶対的に対する相対である。調和の個である。今夕教えられたのですが、日本人に自然に備わった情、物に對してもつたいないという感じをもち伝えてきた。しあわせとは何のおかけか。社会の、世界のおかけだという、ありがたい気持ちとあわれみ、愛の心があった。それが、余りにも激しい物質文明の中に埋れてしまった。

エゴの支配する世の中になつてしまった。物質の繁栄だけでは世の中は平和にならない。情、愛をとりもどさないといい国にならない。これが政治家に課された一つの使命だと思ふ。

文先生から神の子だと感動された。偉くなった感じがする。若い人は二人のために世界があると思うが、世界のために二人はある。政治、原理とは文先生の前で言えないが、ために、日本國のために、アジアのために、世界のためにすることを信じていきたい。

世界のためにわれわれはあ

毎週水・土 2回発行

# 全東京新聞

金東京新聞社  
(郵便番号160)  
東京都新宿区西新宿1-12-3  
電話03(342)3751~2・3053  
発行人 小田ミツ

Our Master speaking powerfully in Japanese to the more than 2,000 banquet guest who crowded into the 1,700 capacity banquet room.





*Our Master and former Prime Minister of Japan, Nobosuke Kishi.*



*Left to right: Dr. Lee Sang Heun; Master, former Prime Minister of Japan, Mr. Nobosuke Kishi; Mother; President Young Whi Kim, and President Osami Kuboki.*



5・7 希望の日 晩餐会での文鮮明師講演抄④

「希望の日」晩餐

希望の日の到来



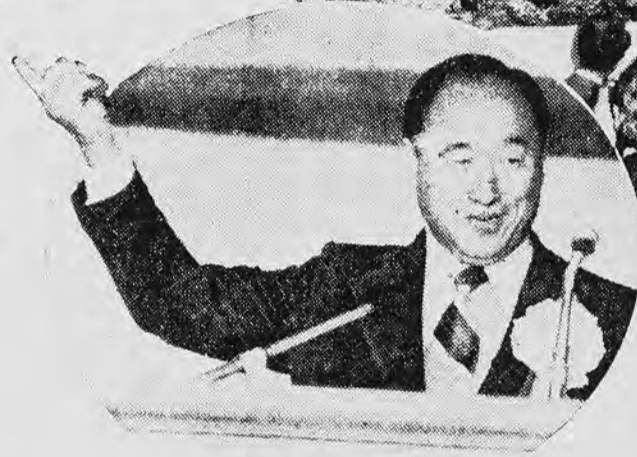
五月七日帝國ホテルの「希望の日」晩餐会での文鮮明師の講演内容を本号より掲載します。

敬愛する諸先生の皆様。待ちに待たぬこの場におきましては、心より感謝申し上げます。

諸先生方におきましては、統一教公の創立者としての、文鮮明という人物に対して、いろいろな疑念を持っていた方がおられると思います。今日、このようにして諸先生をお迎えしましたこの本人が、いわゆる文鮮明という人物でありますから、皆さん、よくよく判断をお願い申し上げます。

祝福の国・日本

私は、敬愛する諸先生方を、心より愛するものであります。人の歴史におきまして、あるいは古い、あるいは長いといいますが、神様の永遠不変なる存在の向いては新しいものであり、同時に古いものであります。この二つの観点から見ると、日本は、あるいは国民が願う前に神様が、この日本列島を誰よりも愛して下さった、と思っております。



「希望の日」晩餐会で語る文鮮明氏

神様は「この日本列島のこの地に、日本の国とその国民を立てて今まで守りて来られました。特に、第二次大戦後において、世界史上に於いては、祝福に恵まれた国があるとするならば、それは日本以外には無い」ということを、諸先生方もよく知っていらつしやることであるのであります。それは、日本の国民の努力もあろうが、その反面、まさしく、神の保護と祝福と愛が多かったからであることには言までもありません。

日本と韓国と中華民国は、アジアの地から見た場合に、共に兄弟であると思つておられます。その兄弟が一つになって、日本が今、まですべての神に愛されてきた以上、神の祝福と愛が多かったからであることには言までもありません。この様な日本の地ですから、この国である東京と都民を私も愛するを得ません。

神の理想を体人間 だが墮落で悲惨な立場に

日本と韓国と中華民国は、アジアの地から見た場合に、共に兄弟であると思つておられます。その兄弟が一つになって、日本が今、まですべての神に愛されてきた以上、神の祝福と愛が多かったからであることには言までもありません。この様な日本の地ですから、この国である東京と都民を私も愛するを得ません。

神に相對する人間

その愛と、あるいは幸福とか平和とか理想という、その言葉自体を考えながら、その言葉ならぬことになるのであります。単独で使う言葉ではございません。

まことの愛、まことの平和、まことの幸福、まことの理想、

限界を神で打開

人類歴史におきまして、如何なる時代においても、人々は、永遠の幸福の真なる愛と、幸福と平和と理想を求めたのであります。現代におきましては、この問題を待つていても求めても、それが果たせぬという望みが欠けた目地に立っていることを、我々はよく知つておられます。

神より優る価値

もし、神様が永遠不変であり、唯一、絶対であるとするならば、その理想の全てを成し得るその相對者におきまして、永遠不変を求めざるを得ないのです。唯一絶対という基準を求めざるを得ないのです。だから我々人間が、歴史を通じて今日まで真なる愛、真なる幸福、真なる平和、真なる理想を求めたのは、結局その主体たる神を迎えるための準備であつたという事を結論づけることができてくるのであります。

理想的人間とは

神様自身が、その相對者自身より優つた者とする、そのようなものでなければ神様は永遠の愛の相對者として、あるいは希望、愛の神は幸福、あるいは理想の相對者として、(人間を)永遠に愛するはあつたことを願ひますか。それは、自分より優れたもの、この地球上に生きている人々の間で、神よりも優る相對者と同じ結論になるに違ひないのといつておきます。ここに結論づけることが出来るのであります。

人間

幸福、まことの理想を成就されるに違ひない、とする以外に我々は求める道がないのであります。まづ、このように考へてみた場合に、神様自身におきましては、愛の王様であり中心者であり、あるいは平和、幸福の王様であり中心者であるに違ひない。それ故、人間が求めるべき行きて行きたるべき理想を、神によって打開する以外にはないと思つておられます。



# Celebration after the Tokyo Banquet



